

## 1 ヘルスケア・メディカルビジネス戦略ビジョン

# ヘルスケア・メディカルビジネス戦略ビジョンとその実現に向けた取り組み

長年ヘルスケア・ソリューションを提供している NTT テクノクロスは、自ら社員の健康を重視した経営にも取り組み「健康経営優良法人 2023～ホワイト 500～」に認定された。さらに IOWN(Innovative Optical and Wireless Network) 構想に基づく注力分野の1つとしてメディカル事業に本格参入しようとしている。

### NTT の研究開発による先端技術を活用しソリューションを開発・提供

NTT テクノクロスは健康管理支援を中心としたヘルスケア事業に加え、近年は医療機器等の製造販売をも視野に入れたメディカル事業に本格参入すべく準備を進めている(図1)。NTT の研究所技術を世に出すことが同社の重要なミッションの1つであるため、ヘルスケア・メディカル分野でも NTT の研究開発支援および先端技術を活かしたソリューション開発・提供に注力している。この分野においては、データの保護と安全な流通が不可欠となっており、NTT テクノクロスが得意と

するセキュリティ技術をはじめ、AI、クラウド、コミュニケーション、メディアなどの各種技術で強みを発揮できることが期待される。

他社との連携も重視しているとして小師氏は次のように述べている。

「我々のソリューションは医療全体からすれば一部の部品です。NTT グループのサービスの一部として、活用もされています。」(小師氏)



NTT テクノクロス株式会社  
(左) 取締役 IOWN デジタルツイン事業部長

小師 隆氏

(右) 取締役 デジタルトランスフォーメーション事業部長

吉場 武氏

### 医療分野の DX により 地域医療を支える

情報連携を効率的かつ安全に行え

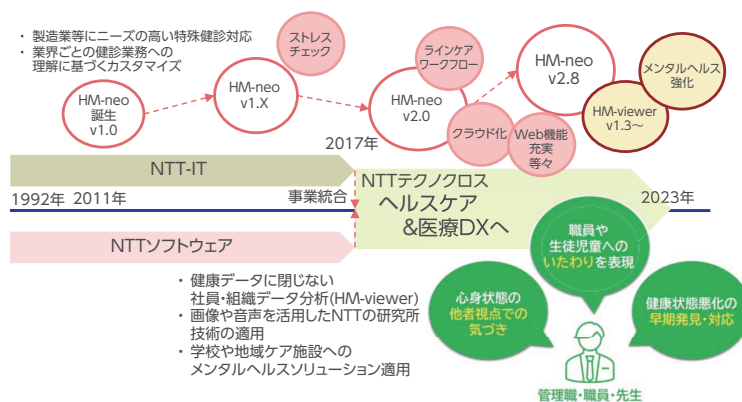


図1 NTT テクノクロスのヘルスケアの歩みとこれから

るようにするなど、医療現場の DX に役立つソリューションも複数提供している。詳細は本特集 2 で紹介するが、特に在宅医療や介護などの地域医療を支える医師、看護師、ケアマネージャーといった医療従事者の負担軽減も重視したソリューションを提供している。

### 健康管理システム “HM-neo”

企業向け健康管理システム HM-neo は、労働環境に応じた特殊健康診断を行う製造業を中心に多数の導入実績がある。NTT テクノクロスにはこの分野で長年の経験があ

るエキスパートが多数揃っており、法制度をはじめとする市場ニーズへの対応力も高い。近年はクラウド化も進め、利便性も高めてきた。

「導入して終わりではなく、導入後に顕在化するニーズにも随時対応します。業種や企業規模といったお客様ごとの異なるニーズに細かく対応できることが強みです。企業向けだけでなく、大学や高校などの文教分野への取り組みも強化しています。」(吉場氏)

### 健康経営の支援に注力

世の中では、従業員が健康にいきいきと働くことを重視する「健康経営」への関心が高まっている。NTTテクノクロスも近年は、健診業務に加えて健康経営そのものの支援に力を入れている。詳細は本特集 3 で紹介するが、コロナ禍から急増したリモートワーク等の新しい働き方を支えるメンタルヘルスケア対応ソリューションの提供を開始し、2022年4月には従業員の健康データを可視化し課題把握を支援するツール“HM-viewer”の提供も開始した。HM-neoと組み合わせ健康経営のPDCAに役立てることができる。

「健康経営施策を講じるには、まず従業員の現状を把握することが重要です。今後は各ソリューションのデータを活用し、施策の効果測定にも取り組む考えです。」(吉場氏)

### IOWN 構想の一環として メディカル事業に参入

NTTテクノクロスはIOWN構想の構成要素であるデジタルツインコンピューティングによって人それぞれ

れの身体および心理の精緻な画像を実現するバイオデジタルツイン(BDT)に向けても取り組んでおり、メディカル事業への本格参入もBDTとの関係が深い。

「NTTはIOWN構想においてBDTの実現と医療分野での取り組みを推進する方針であり、グループとして更に成長させていく事業領域と言えます。我々もソフトウェア開発力を活かしたソリューションで先陣を切り、IOWNアプリケーションの1つとして提供していきたいと考えています(図2)。」(小師氏)

### 医療機器認証取得を入りに メディカル事業へ本格参入

NTTは東レ株式会社と共同で、心拍数や体内温度の変化を計測できる機能性素材“hitoe®”を開発した。NTTテクノクロスはhitoe®のデータ転送を行うトランスミッターの実用化開発に携わり、暑熱環境下での体調不良の予兆を検知する“hitoe®暑さ対策サービス for Cloud”を2021年7月より提供している。重視しているのは計測した生体データを分析し新たな価値を提供することだ。これはBDTの実現に向けた取り組みのひとつでもある。



図2 IOWN 構想への貢献

詳細は本特集 4 で紹介するが、2023年7月から“hitoe®ウェアラブル心電送信システム”の販売を開始したことは大きな進展である。

「メディカル事業への参入にはしっかりした準備と長期的な取り組みが必要です。ここ2年ほど体制強化に加え、医療機器認証取得等に向けた取り組みを通じノウハウを蓄積してきました。今後もhitoe®を医療現場で使ってもらいながら、更に医療ニーズを吸収するため専門知識を有する人材獲得・育成に力を入れる考えです。今後、医療分野でのソフトウェア活用がますます進展すると予想されており、得意とするソフトウェア技術で貢献したいと考えています。次の目標として今年度中に医療向けソフトウェアを提供するための製造販売業の許可を取得する準備を進めています。」(小師氏)